

実況中継「土曜講座」

第 8 号 2023年 10月 23日発行

市川学園9月30日の土曜講座 於 多目的ホール

中島 隆博 先生

世界哲学から読む中国哲学

東洋文化研究所所長



中島先生のご紹介

- 1987 東京大学法学部卒業
- 2000 東京大学大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・表象文化論 准教授
- 2004 ハーヴァード大学イェンチン研究所 客員研究員
- 2014 東京大学東洋文化研究所 教授
- 2015 プリンストン大学 客員教授
- 2023 東京大学東洋文化研究所 所長

主な講義内容の紹介

今回の土曜講座は中島隆博先生による「世界哲学から読む中国哲学」というご講演でした。

中島先生は、中国哲学だけでなく、世界哲学の著書も数多く執筆された先生です。そんな先生から始めに、「世界」とは何か、「哲学」とは何かというお話がありました。「世界」とは、サンスクリット語の「loka-dhatu（世—界）」を翻訳した言葉であり、「世界＝世間」と捉えることができます。「哲学」とは、「尺度なしに概念を創造すること」です。そもそも普遍的である哲学をあえて「世界哲学」と名付ける概念自体がそれほど流通していない中で、2018年に日本の哲学研究チームが「世界哲学」という概念を提示しました。中国の孔子以来の中国では解説や議論の伝統はなかった、と断言する研究者もおり、西洋文化のみが文化の限界を超えようとし、普遍的な真理を目指してきた、と発言する哲学博士たちが未だにいる中で画期的な提示だったと言えます。「世界哲学」は、「世界」という概念や「哲学」という概念それ自体をもう一度問い直し、その二つの概念の複合から新しい哲学的な実践を始めようという試みなのです。

後半は、孔子の「仁」と「礼」、孟子の「性善」、荀子の「性悪」、荘子の「物化」など、授業でも耳にするようなキーワードについて様々な角度からのお話を頂きました。諸子百家→朱子学→陽明学→近代儒教という中国哲学の変遷を学ぶとともに、「概念を問い続ける」ことの重要性を学ぶことができたご講演でした。

受講レポートから

- ・この講座を受けるまで、「哲学」と聞くと真っ黒で重い泥沼をかき分けていくような気分になったものですが、話を聞いているうちに、時代の流れと共に変容していく中国哲学の思想について少しずつ理解できて、人間の「性」、本質とは何かを深く考えることができました。私が特に面白いと思ったのは「仁」「礼」「性」「物化」の思想で、不完全であると考えていた人間の感情によって決められた規範が理性によって決められたそれよりも優れていると知って驚きました。そして「物化」の、「自分であるのに自分ではない」という状況は難しいながらも興味をそそられる内容で、自分でも考えてみようと思います。この講座を選んで本当に良かったと思います。素晴らしい講演をありがとうございました。(中1女子)
- ・古代儒教の「性」において、善にむかうために「礼」を用いて己を変化させる努力をするという点に非常に納得し、面白いと思った。古代儒教の「仁」「礼」「性」の3つに重点を置き、神のいない、人の感情というものに基づいてできた人間の生き方の指針を大切にするという考え方が、私たちが生きる現代社会において重要で、今一度見直されるべきものだった。(中2女子)
- ・概念は複数の物事や概念と合わさり、成長して普遍化するという考えがとても面白かった。自分が哲学的に何かを考えると、概念の合成により普遍化することを踏まえて考えられるようになりたい。物化について荘周と蝶を分けるもの、それぞれの本質について考えると荘周が荘周である世界と蝶が蝶である世界には大きな違いがあることについて難しいと思ったが、どのような違いなのか興味が湧いた。(中3男子)



・「哲学」というもののとらえ方から今直面している問題まで新鮮なことを多く学んだ。欧米で啓蒙主義の高まりにより神という心情的なものから理性での支配に移行したが、現代ではまた原点に戻り、仁や礼などの感情的な規範を大切にしようとしているのが興味深かった。また、性善説、性悪説の考え方にとっても驚いた。性善説、性悪説というのは元々人間は善なる、悪なる存在だという主張だと思っていたが、実は、善へのプロセス、悪へのプロセスへの関わり方だと知った。抽象的に理解が難しい所もあったが、学びのある講演でした。最初世界哲学は各地の概念を普遍化させると聞いて、その目的を疑問に思ったが、目的なしでそれを達成するプロセスを歩むことが大切だと知った。(高1男子)

・中国古来の有名な思想家としては、孔子、孟子くらいしか知らず、タイトルに惹かれて飛び込みで受講したのですが、とても分かりやすく面白く講座でした。個人的には「性善説」「性悪説」が気になり、浅学ながら人間は本来「性悪」なのではないかと考えてしまいます。欲望＝悪と仮定し、古来より人間は誘惑にとっても弱く感じます。アダムとイブの物語から、日々誘惑に負けてしまう自分まで…。その中で「善」になろうとするのは、多くの人が性悪のまま生きてしまった場合の損失を知っているからだだと思います。根本にある「悪」を理性でがんばって、制御しようとしているのではないかと考えます。(高1女子)

・私は元々中国に住んでいたため中国について興味がありました。でも哲学については初めてで少し難しかったです。世界哲学という言葉にしても世界と哲学についてそれぞれ深く考えていて奥深さを感じました。これまで中国哲学というと私の中では孔子のイメージが強く、「己の欲せざる所に人に施す勿れ」という言葉がずっと印象に残っていました。その言葉は仁に基づいていたのだと知ることができ、仁の根本的な考え方もよく理解できました。また、愛がマイナスのイメージを持っていたことに驚いたし納得できました。哲学に興味を持つことができました。講演ありがとうございました。(高2女子)

